



連休は大車輪で。連休の中日に市長要請、原発学習会に、県庁対応に、孫と一緒に田植えも畑仕事も
①市長要請は前号掲載 (読んでね) ②今号は柏崎刈羽原発の学習会を中心にお知らせします

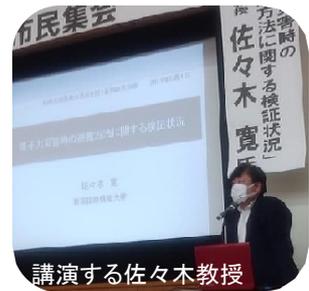
原子力災害時の避難計画を検証する

—佐々木寛さん(新潟国際情報大学教授・県原子力災害避難委員会委員)の学習講演をお聞きしました—



講演後挨拶する遠藤県議

5月1日、長岡市内で「柏崎刈羽原発の是非を問う長岡市民集会」が開かれ、新潟国際情報大学教授佐々木寛先生の講演に多くの方が参加されました。
福島第1原発事故を受け、新潟県民は米山知事を誕生させ、3つの検証委員会が設置されました。佐々木



講演する佐々木教授

「安全に逃げる事ができる。生活を保障する」が大切

教授は「避難計画の実効性を徹底的に検証する」避難委員に任命され、これまで検討を重ねてこられました。一研究者として、いくつかの課題を提起されました。

①避難委員会の現在の議論の要点

全体的に中身のあつ議論が進められてきています。しかし、噴出する課題、検証は緒に就いたばかりです。

▼東電の信頼性についての問題、▼多重防護の「第5層」と言う位置づけ、▼「避難」の範囲をどこまで、▼事故の想定の問題、▼PAZ、UPZ区分と「屋内退避」の問題、▼県の避難計画の検討という落とし穴、→横ぐし

を刺した「計画の実効性」の検証、▼複合災害(地震、雪害、新型コロナウイルス、テロ)への対応が必要ではないか。

②二つの地裁判決を学ぶべき

◎日本原電・東海第2原発再稼働差し止め判決(21年3月18日)

水戸地裁判決): 原発の30キロ圏に94万人が暮らすことをふまへ「実効性ある避難計画や防災体制が整えられているというには程遠い状態で、人格権の具体的危険がある」

◎関西電力・大飯原発3・4号機運転差し止め判決(14年5月21日)

日福井地裁判決)「人格権(命の権利)を超える価値を見出すことはできない」

③20年秋以降県内では、「原発再稼働への動きが加速」

●資源エネルギー庁長官の度重なる訪問(1年で80回)、●東京商工会議所の三村会頭の柏崎訪問、●県議会ですら自民党県議が池内了検証総括委員長を批判、●避難委員会ですら「県の取りまとめ方針」の表明と委員からの強い反対、「幕引き」を図りたいと県の姿勢が変化?。●技術委員会の委員不任問題。などなど。

④次期新潟知事選に向けた署名運動の開始(21年3月)

原発再稼働の是非を県民が決める署名

「原発再稼働の是非を決める際には、公約を守りわたしたち県民の声をしっかりと聞いてください」請願署名①「3つの検証」は期限を切らずに、②検証の過程で住民の声を

しっかり聴いて、③判断する際は「県民の信を問う」という公約を守ってください! →県議会の承認だけではだめです。

◎署名は重要ですが来年の知事選前まで60万筆を集めましょう! みんなで、頑張ってください! しょう! (遠藤れい子)

5月4日、田植え真っ最中。綺麗な夕日。育苗箱洗いを5年生になった孫が手伝ってくれました。うれし

~(^.^)♡♡♡
野菜苗も植え、寒さカバーもバッチリ

